

南方（ニューギニア）

病院船撃沈さる 漂流五日間

大阪府 武村 長 八

―武村さんは朝鮮の部隊へ入ったそうですが兵科と、勤務地は何処ですか。

私は大正六年一月二十七日、滋賀県蒲生郡旧玉緒村、今の八日市市で生まれました。昭和十二年七月七日に徴兵検査を受けたのですが、その日は支那事変勃発の日です。結果は第一補充兵でした。臨時召集を受けたのは、大東亜戦開戦から半年後の、十七年六月五日で、静岡県の浜松へ集結させられました。

朝鮮の釜山上陸、会寧の朝鮮第六十二部隊、野戦高

射砲第五十九連隊第二中隊へ入隊してからは、羅津・羅南の海岸で高射砲の演習の明けくれでした。

また、半年後、南方の第八方面軍へ配属になることになって、十七年十二月早々出帆したのですが、「パンドン丸」（三千八百トンぐらい）という輸送船に乗り、船団を組んでニューブリテン島のラバウルに着いたのは、十七年十二月十五日でした。駆逐艦・駆潜艇が護衛したおかげで、十五日間空襲なしでした。

―目的地はラバウルだったのですか。

いや目的地はブーゲンビル島のエレバンターです。翌十六日輸送船がその途中でやられた。魚雷二発くっただ。私等は海に飛び込んだが腕時計が十二時五分で止まっていました。二発目が機関部に命中し、船が真二つに折れ沈んでいくのをこの目で見ました。

皆はドラム缶や、流れている物にしがみ付き泳いでいたのです。駆潜艇や駆逐艦が敵の潜水艦をやっつけてくれ、四十分ぐらいで助けられた。私は禪一本で船へ揚げられたのですが、食料、資材、被服は勿論、火炮や弾薬など全部船と一緒に沈んでしまい、皆、丸裸で何も持っていない。

それでもやつとエレベーターへ上陸することが出来て、しばらくして火炮、弾薬が送られて来た。エレベーターは四キロ四方ぐらいの小さい島で、一個中隊だけで陣地構築をしたのです。もうその日からソロモンの戦に参加したわけで、ニューブリテンはじめ、ソロモン諸島の海域や島では激しい戦いの連続でした。この戦から日本軍がだんだんと押されていったとは戦後知ったのです。

その頃から私は痔疾に悩まされ、十八年六月兵站病院に入院したのです。

兵站病院では充分治療出来ないのです、十二月三日、病院船で出帆した。船は「ブエノスアイレス丸（吉野丸）」で真っ白に塗りがえられてあったのですが、米

機の爆撃にあってしまった。船内には、ラバウルから内地へ交替のための看護婦や衛生兵と入院患者だけなのです。しかし、元気な者は海へ飛び込んだ。

私の乗った舟は穴があいてしまったので、鉄帽で水をかい出したり、お互いにピンタをとりながら眠ってしまうのを防いで五日間漂流した。十二月三日から七日までの五日間です。

その間、筏を太い縄で縛った舟もバラバラになってしまいました。我々は病院船が沈むので五十メートル以上離れた。片腕無い人もいたが、死んでしまったかどうか判らない。相当の人が亡くなったと思います。

看護婦、衛生兵、病人、全く無抵抗な戦闘員でない人たちの乗っている病院船を攻撃して沈め、沢山の人が亡くなっている。戦争はムチャクチャや。

内地からは、無線が来ないので助けに来た。食う者も飲み水も何も無い。雨水で飢えや渴をしのいで、生き残った六人が励ましあいながらいた。

海軍の駆逐艦で救われて、小さな島に僅かな間いた。そこからラバウル―田之浦の兵站病院へ着いて静養

し、大阪へ入港しました。病院で一ヵ月治療し、小倉でさらに一ヵ月、京城病院でマラリアも良くなり、山砲第四十九連隊に転属されたが、第四十九師団臨時動員があり、野砲第二十六連隊に編入されて、十九年八月一日召集解除となりました。

滋賀県の田舎へ帰ったら、また召集が来たが、病気が完全には快復せず、即日帰郷となった。

―その間一番辛かったことは何でしたか。

辛かったのは漂流中の時です。半分死んでいました。五日間ぐらいで六人救われたわけですが、駆逐艦の甲板に引き上げられて、安心感でか、三人が死んでしまいました。他の人たちはどうなったのか判らなかつたが。

エレベーターの高射砲陣地では、敵の飛行機が四方から射つて来たり、爆撃される。七十ミリの高射砲は十三人で射つたのだが、一回転するのに十九秒かかるのです。そんな中で小隊長が戦死してしまつたし、戦友もたくさん死んだり負傷した。その人たちと離れて、私が先に日本へ帰つて来てしまい、今も胸の痛む

ことであります。

比島・ニューギニア船舶工兵の死闘

愛媛県 和田盛正

―和田さんは、何年徴集で、何処へ入隊されたのですか。

大正九年二月七日、松山市で生れて、昭和十五年徴集ですが、昭和十六年三月二十五日臨時召集され、西部第三七部隊（善通寺）に入隊しました。ですから現役兵とほとんど変わらないのです。

入隊してから広島第七部隊、上海の独立工兵第十連隊安達部隊へ転属。上海の昭和島で約半年間、軍事教育訓練を受けて、九月末に第一中隊第一小隊へ編入、付近でクリーク戦闘などにも参加しました。

―工兵隊ではどのような教育でしたか、工兵にもいろいろ専門があるのですが。